富山市総合計画審議会第４回活力部会 概要

場所 ： 富山市役所議会棟８階 第４委員会室
日時 ： 平成 18 年 7 月 10 日（月）
14：00 ～ 15：30

１　開会

２　企画管理部長あいさつ

老月企画管理部長あいさつ

６月３０日（金）に基本構想（案）について諮問したが、本日は活力部会としてさらなる議論をお願いし、答申として取りまとめをさせていただきたいと考えている。

３　部会長あいさつ

長尾部会長あいさつ

本日富山市議員に対して、活力部会としてどのような話をしているのか説明する機会があった。その中で、総合計画全般では２つの点を強調した。一つは富山県と富山市の事業間の調整、もう一つは総合計画を１０年間フォローできる仕組み（行政評価システム）づくりである。

活力分野のうち、観光に関しては、例えば統廃合した学校や公民館等の空き室、空き家などを利活用し、１週間程度滞在できる仕組みをつくり、中長期滞在型観光を推進すべきと強調した。

また、議員からは、冬場に１００万人の観光客が期待できることから、北アルプスの通年型観光を活力部会で検討してほしいとの要望があった。

議員の皆さんも総合計画に対して様々な議論をしているようである。我々も活力部会として、総合計画についてしっかり検討していきたい。

４　議事

・総合計画基本構想（案）について

＜概要＞

（部会長）　まず、本日配付された資料について説明をお願いしたい。

（事務局）　資料について説明

（部会長）　ただいまの説明について何か意見はあるか。

（委　員）　本日配付された資料の５頁についてであるが、１２個のまちづくりの主要課題には、ある種の上下関係なりレベルの違いがある。レベル間を整理し、

グループ分けすると、５頁の図は見やすくなると思う。

（部会長）　基本構想（案）については、先日の全体会で説明もあったので、早速議論に入りたいと思う。

（委　員）　３６頁の４　新しい価値を創造する活力ある産業の振興の中の〈とやまの未来を拓く新しい価値の創造〉のとその中に記載のある新産業との関係であるが、新しい価値と新産業がどのように結びつくのか理解に苦しむ。
　単に、新産業という書き方なら理解しやすいが、新しい価値を創造する産業とはどういうものなのか、非常に難しい。技術の複合化という観点なのか。

（委　員）　新しい産業はなかなか育たない。富山の産業も江戸時代から集積があり、歴史がある。ここに記載があるのは、従来の産業に付加価値をつけることで、新しい産業のフィールドができれば良いということであろう。
　例として、とやま医薬バイオクラスターがある。そこでは、特定健康保健食品について、漢方とバイオ、データ処理を連動させて、個々人の体質を見た診断システムの研究が行われている。これがうまくいくと大変な市場性があると思う。単純な医薬品産業ではなく、その周辺に付加価値をともなって一大医薬品産業が誕生する可能性がある。このようなことでないか。

（委　員）　富山市のエコタウンも大変面白い取り組みをしており、評価の高い活動である。このような取り組みのことではないか。

（部会長）　新しい価値を新しい産業とストレートに読むと苦しい部分がある。もう少し表現を分かりやすくするため、新しい価値の創造が最終的に新産業に繋がることを表現しても良いのではないか。

（委　員）　価値という言葉が非常に幅広い意味を持つので、価値という表現を使うと一般論になり過ぎて分かりにくいのではないか。

（委　員）　価値観については、基本構想前半で多様な価値観という表現が使われている。価値には認めてはならない価値もある。まちづくりを進める上で共通の価値の前提があると思う。どういう価値を持ってまちづくりを進めるのかを基本理念で述べるべきではないか。全般的に価値という表現が簡単に使われているように感じる。

（事務局）　富山市では、富山大学の敷地内に新産業の支援施設を計画している。その中でバイオ、ナノテクなどを核に新しい産業の種が生まれることを期待している。

（部会長）　市民に分かりやすくするためにも、“とやまの未来を拓く新産業、新事業の創造”という表現に改めてはどうか。
　その他意見はあるか。

（委　員）　６月３０日の会議の中で、基本構想全体に富山市の特徴が感じられないという意見があったが、活力部会でも５年先、１０年先を見据えて、大きな視点から何が特徴で、何が将来にとって大事かという議論を出し合う必要があるのではないか。
　７市町村が合併して、町村は過疎化してきているように感じている。４２万都市のスケールメリットに期待して合併に賛成した市民が多いと思うが、具体的にどの様な構想が行政として描かれているのか、私達がどのようにアドバイスできるのか、早くその議論に入りたいという思いが強い。
　例えば、部会長の挨拶の中であった立山の冬期間の観光も、道路アクセスや取り組みによっては不可能な話ではない。また、コンパクトなまちづくりの取り組みについても、合併した市町村との市街地との関連性の中でプランニングをしていかなくてはならない。それらのことについて意見を聞いたり、述べたりしながら練り上げていくことが必要と思う。

（部会長）　基本構想という段階で、かなり抽象度は高くなっている。基本計画や実施計画では富山市らしい事業が見えてくると考える。

（事務局）　総合計画の基本構想は、行政の仕事の広範な分野について記載しているので、色々な分野の方々の意見を取りまとめると総花的にならざるを得ない部分があることをご理解いただきたい。この後の基本計画になると、５年から１０年の施策の議論になると思うので、富山らしさというものも表れてくると思う。
　また、個別の部門ごとに計画もある。それらは全て総合計画に関連しているが、それらの計画を全て基本構想に盛り込むことは難しいので、ご理解いただきたい。

（委　員）　６月３０日に配付された施策の具体的方向（例）という資料があるが、その方向付けがされると考えてよいのか。

（事務局）　あくまで例ではあるが、基本構想の方向性を受けて、施策の具体的方向（例）の事業を考えていくということである。この段階になれば富山市の色が表れると考えている。

（委　員）　今は基本構想の議論の中で、柱を立てている段階ではないか。基本計画の議論により屋根ができたり、壁が出来たりすると考えればよいのではないか。

（事務局）　この基本構想の文章だけでは何をするのか分かりにくいとの判断から、資料として施策の具体的方向（例）を提出した。

（委　員）　基本構想であるので、中央政府がやることではなくて、地方政府がやることが土台としてあると思う。地方政府がやるべきことは、１２個のまちづくりの主要課題の中にかなりの部分が含まれている。並べ方にある程度順位づけが必要と思う。

富山市らしさを出すとすれば、富山市の特性等に何処まで書き込むかが重要であり、その富山市の特性等の記述が生かされた格好で項目が並んでいないと、なかなか富山らしさは表現されないと思う。８頁の（３）富山市を取り巻く状況の中にどこまで盛り込めるかが重要であると思う。

富山らしさは色々な分野にある。例えば、富山は東北地方に比べると工業がある程度発達していて、その割には農業も残っており、農工のバランスが比較的とれていると思う。富山市を取り巻く状況の中にこの項目が入ることで、農を軸にした産業の活性化というものを表わしても良いのではないか。

このことから、

また、コンパクトなまちづくりという視点は、農業や新産業、都市農村交流などに関わっている。そういう意味では、農業と工業の新たな結びつき方を見直し、新たな産業構造を活性化していくという視点も必要である。

（委　員）　富山らしさを表現するためには、８頁の（３）富山市を取り巻く状況を独立させることも考えられる。

この構想では合併したことが歴史的特性の中で表現されているが、合併してもなお７市町村が独自性を持っていることが富山市の大きな課題であり、その他に新幹線、中心市街地の空洞化や中山間地域の過疎化という状況を受け、富山市としての考えを明確に打ち出すことで富山らしさを表現できるのではないか。

（委　員）　少子高齢化により、若者が富山に残らない時代が来るとしたら、どうしても産業は観光に対する比重が高くなる。

金沢と富山の観光を比較すると、金沢は兼六園を中心とした半径３キロメートル以内に観光資源の８割が含まれる。富山は八尾や岩瀬などスポット的であり、さらに時期も異なる。これらを公共交通機関でどのように繋ぐかが重要であり、それを逆手にとって、色々な交通機関に乗って旅することができることを売りにすることで、富山らしさが表れる。

（部会長）　富山市の特性に、安心、安全、潤い、活力、協働それぞれの分野での特徴を表わすことも１案かと思う。富山市を取り巻く状況を肉付けして富山らしさを表わすことを活力部会の意見として協働部会に報告したい。

（委　員）　合併したことにより、総合計画を策定しているのであるから、前提となるものと思う。
　また、地域間の交流により市民の一体感の醸成を図ることが基本であり、それに対する事業等は基本計画の前期５年間は重要なものと思う。

（部会長）　市民が一体感を持つことで、誇り（プライド）を持つことができる。

（委　員）　８頁の（３）富山市を取り巻く状況の中に環日本海を意識した活力構想の記載がないといけないのではないか。

（委　員）　同じところに、鉄道・道路・空港・港湾が整備され、という表現があるが、今の港湾のレベルでは地域をリードできるか疑問がある。地域をリードする観点から言うと、さらに整備を進めなくてはならないと思う。

（部会長）　基本計画や実施計画の中で、その表現に整合性が求められていくものと思う。

（委　員）　高齢者の雇用についての記載に物足りなさを感じる。

（部会長）　新しい雇用の形態についても考慮する必要がある。

（委　員）　人材の質が活力の創造には影響がある。能力のある若い人材が地域に根付き、ずっと居たいと思うまちになることが、富山が将来勝つ（発展する）ための最大の条件と思う。それらの人が誇りをもって働ける場所をどれだけ作れるかが問題である。

（部会長）　地域間競争に打ち勝つためにも、重要な視点であり、基本計画や実施計画のなかで、議論したいと思う。

（委　員）　地域の魅力を創出するには、誘致する企業にもある程度左右されると思う。
　例えば、研究所などを誘致することが必要ではないか。

（部会長）　多様な業種の集まった都会型のビジネスを中心市街地でも振興する仕組みづくりも重要である。

（委　員）　富山は都会にはなれない。田舎くささを出すことも重要ではないか。
　また、中心市街地の商店街で火災があったが、それら地域の建物は築年数も経過しており、危険である。その辺りも考えていかなければならない。

（部会長）　他に意見も無いようなので、本日の部会を終了させていただく。本日議論いただいた内容については、協働部会で報告させていただく。

5　閉会

（以上）